

いずみのひるば

2026年7月号

日本基督教団教会
NO.569 教会学校



我らを試みにあわせず (マタイによる福音書4章1-11節)

今回のお話は、主の祈りの「我らを試みにあわせず」についてです。

「試み」ってなんですか。似た言葉には「試練」があります。人生で経験する試練は、しばしば辛く苦しいものですが、私たちはそれによって成長できます。勉強でも運動でも、昨日できなかったことが今日できるようになるのは、きっと大小の試練を乗り越えたからです。

主の祈りで「あわせないでください」と祈る試みは、そのような試練ではなく、悪魔の「誘惑」です。私たちが悪魔の誘いから守ってくださいというお祈りです。

悪魔は私たちが神さまから離れさせようとして誘惑してきます。エデンの園でエバに知恵の実を食べると賢くなる誘った蛇のように、悪魔はいかにも正しいこと、必要なことと思わせながら、私たちの目を神さまからそれようとしてきます。

例えば、友達と比べて、自分のほうがすごいとか、自分は全然だめだとか思ったり、友達と仲良くできなかったり、意地悪をしてしまったり、自分のことを正しいと言いたい張ってしまったり、そんなことはありませんか？ 神さまは一人ひとりに恵みを与えてくださっているのに、そのことを忘れて、自分のことばかり考えてしまうのです。

悪魔はそうやって私たちが神さまから離れさせようとしてきます。

今日の聖書の箇所では、イエスさまが悪魔から3つの誘惑にあわれたことが書かれています。イエスさまはそのすべての誘惑に聖書の言葉を打ち返して勝利されました。

1つ目は、「石をパンに変えてみる」というもの。これは、神さまからの恵みを忘れさせようとする誘惑です。

2つ目は、「神殿から飛び降りてみる」というもの。これは、神さまのことを試させようとする誘惑です。

3つ目は、「私を拜めば世界の栄華をあげよう」というもの。これは、神さま以外のものを神さまよりも大切にさせようとする誘惑です。

人はきつと悪魔の誘惑に勝つことはできませんが、イエスさまは、それに完全に打ち勝たれました。

そのイエスさまが、私たちに「我らを試みにあわせず悪より救い出したまえ」と祈るように教えてくださったのです。私たちがそのように祈るとき、イエスさまが一緒にいてくださいます。礼拝の中で祈るだけでなく、日々の生活の中でも主の祈りを忘れずに祈りたいと思います。

(おはなし：大井康之せんせい)